

季刊

# じぱ

Japan Intellectual Property Association

理事's eye

下川原 郁子 日本知的財産協会 副理事長／  
株式会社東芝 技術企画部エキスパート

わが社のこだわり

アステラス製薬株式会社

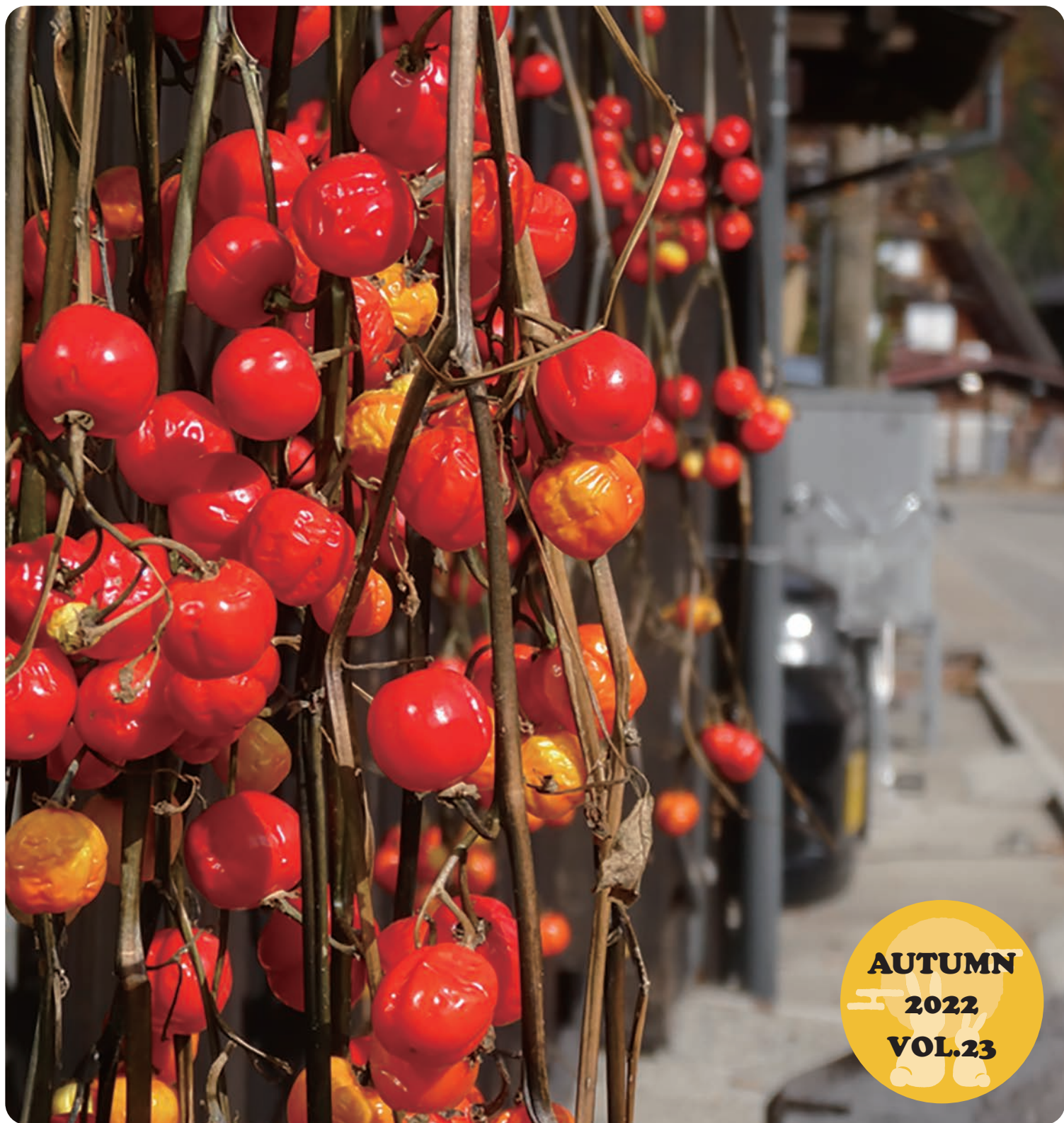
変化する医療の最先端に立ち、  
科学の進歩を患者さんの「価値」に変える

ZOOM UP

グローバル模倣品対策プロジェクト

JIPA通信

「知財管理」誌 特集号



AUTUMN

2022

VOL.23

## JIPAは知財を通じて産業の発展へ寄与すると共に、参加者個々人を成長させる大切な場 刻々変化する環境を的確に捉え、新たな価値を築いていきたい

今年7月初め、担当理事として人材育成委員会に参加しました。ちょうどコロナの波が収まっていた状況で、数年振りに宿泊付きのハイブリッド開催となり、会議では研修の状況確認と必要な対策、今後の研修の在り方などを議論。懇親会では、アクリル板を介しつつ、会議の議論の続き、互いの業務を踏まえての意見交換、翌日の予定など大いに語り合いました。

会社の業種や規模そして年齢を超えて知財という旗の下にメンバーが集い、触発され、繋がりを築き、視野を広げ、知見を得て、成長していく、JIPA活動の醍醐味の一端を改めて実感した次第です。

思えば、私とJIPAの出会いも入社後数年の頃に参加させて戴いた研修委員会（現在の人材育成委員会）でした。当時の上司が同委員会の委員長をしていたご縁があったのかもしれません。大変刺激を受けたのを覚えています。

若輩者の心に刻まれた幾つかのシーンは、異業種異世代のメンバーとの闊達な議論、研修休憩時間の講師との懇談時の緊張、夏休みのラジオ体操のような出席カードへのハンコ押し、宿泊付きの委員会。懇親会で「いつものゲラ、ゲラの歌、唄って」とのリクエストに応え、旅館の大広間で中森明菜を熱唱し…、何やら話の方向性が怪しくなっていました。コロナ禍で難しい状況が続く昨今ですが、JIPA活

動の醍醐味を生かすべく、様々工夫して活動して下さっている皆さんに大変感謝しています。

JIPAは来年創立85周年を迎えます。創立以来、JIPAはその活動を通じて、会員企業や委員同士を、政府・関係機関やアカデミアと産業界を、経営と知財を、繋げ、新しい価値を創造してきました。様々な「繋がり」がキーワードの今、DX、SDGs、経済安全保障、共創によるイノベーション促進など、複雑に変化する環境を知財目線で的確に捉え、多くの視点を入れて検討し、政策への提言や会員企業へのフィードバックなどを通じて新たな価値を創造し、産業界の発展に寄与すべく共に取り組んでいきましょう。



### 「JIPA理事としての視点」 「知財部門のリーダーとしての視点」 2つの視点で深掘りする知財業界の今

下川原 郁子

Ikuko SHIMOGAWARA

日本知的財産協会 副理事長

株式会社東芝 技術企画部エキスパート

## 事業環境が変化する今、知的財産部門は自らのスキルを磨き守備範囲を広げて 知財業務を進化させるチャンス

「人と、地球の、明日のために。」—この経営理念のもと、当社は現在、誰もが享受できる安全安心な暮らしを守るインフラと、社会的・環境的な安定の実現のために繋がるデータ社会を構築し、デジタル化を通じてカーボンニュートラルとサーキュラーエコノミーの実現に貢献すべく企業活動を行っています。デジタルエコノミーの発展に伴い、今後、様々な企業が産業の垣根を越えて繋がることで新たな社会価値が創造されていきます。

当社では、デジタルを活用してビジネスをサービス化する「DE（デジタルエコソリューション）」を第一段階とし、次にプラットフォーム化によりデータを中心とし

た多くのサービス展開が可能となる「DX（デジタルトランスフォーメーション）」へ、更には量子技術を活用する「QX（クアंटムトランスフォーメーション）」へ、という中長期ビジョンで事業の成長に取り組んでいます。

事業がデジタルやデータを活用して変化し、パートナー連携など様々な手法で技術の価値顕在化を指向する今、その戦略の一翼を担う知財部門の役割も変化、拡大しています。

自社の要素技術や事業を支える知財ポートフォリオを構築し活用するという基本は、いつの時代も変わりませんが、扱う対象がデータやノウハウなどにも広がり、現場が事業構想や企画の場にも広

がり、見るべき相手が異業種やベンチャーなどにも広がり、活用のしかたも多様化しています。

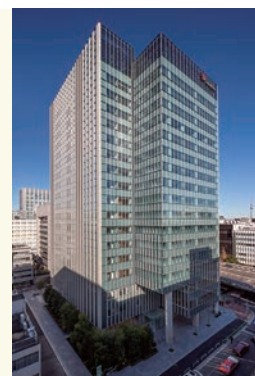
そして、このような変化に対応する為、知財部門としても、情報収集と分析、契約への対応、関係法制規制の理解、関係部門とのコミュニケーション・連携、などのスキルを一層強化していく必要があります。新たな知財的取組みを共通知化する施策や知財人材育成プログラムの更新などを通じて、この難しくも大変やりのある新領域の知財業務に取り組んでいるところです。知財部門の個々人の持つ多様な専門性と、部門内外との連携による総合力で、知財業務を進化させていきたいと思っています。



## わが社のこだわり [ アステラス製薬株式会社 ]

変化する医療の最先端に立ち、  
科学の進歩を患者さんの「価値」に変える

山西 了 Ryo YAMANISHI

日本知的財産協会 常務理事  
アステラス製薬株式会社 イノベーション知財室長

アステラス製薬は、日本のみならず世界の医薬品市場で十分な競争力を有する新しい会社を創生するという考え方のもと、山之内製薬と藤沢薬品工業が合併して2005年4月に誕生した医療用医薬品を中核事業とするグローバル製薬企業です。「アステラス」という名称は、最先端の医薬品で、健康を願う人すべてに、明日への希望をもたらす、研究開発型グローバル製薬企業として発展していくという思いが込められた名称です。アステラスは科学の進歩を追求し、医療の変化を捉えることで、継続的にアンメットメディカルニーズ(満たされない医療ニーズ)を特定しています。革新的な新薬と患者さんの医療へのアクセス、およびアウトカムを向上させるためのソリューションを生み出すことで、世界中の患者さんに、より優れた「価値」を提供していきます。

継続的なイノベーションの創出により、  
患者さんに革新的な治療(価値)を届けます

アステラスのVISIONは「変化する医療の最先端に立ち、科学の進歩を患者さんの『価値』に変える」ことです。その達成には最先端の科学の追求とグローバルネットワークの活用による、継続的なイノベーションの創出が重要だと考えています。

アステラスはFocus Areaアプローチに基づく新薬の研究開発を通じ、革新的なバイオロジーやモダリティ/テクノロジーの組み合わせにより可能となる、アンメットメディカルニーズの高い疾患の克服を目指しています。バイオロジー、モダリティ/テクノロジー、疾患の組み合わせのうち、科学的妥当性、実行可能性、プロジェクトの充実度や進捗等の基準により優先的に取り組むべき対象をPrimary Focusと定義し、現時点で4つを選定しています。これらの中には、革新的な治療を患者さんに届けるための取り組みとして、細胞医療や遺伝子治療も含まれています。

細胞医療や遺伝子治療は、病気の症状ではなくその原因に直接働きかけることができます。そのため、一回から数回の治療により病状を大きく改善させ、さらには根本治療にもなる可能性を秘めています。このような新しい治療手段は、患者さんやそのご家族、さらには社会全体に新たな「価値」をもたらす可能性があります。

また、医療用医薬品(Rx)事業で培った

アステラスの強みをベースに、最先端の医療技術と異分野の先端技術を融合させることで、Patient Journey(診断、予防、治療および予後管理を含む医療シーン全般)全体において患者さんに貢献し、かつ単独で収益を生み出せる事業であるRx+<sup>®</sup>事業にも取り組み、「科学的根拠に基づくヘルスケアソリューションによって、心身ともに健康に、自分らしく生きることができる社会」の実現を目指しています。

新しい技術・モダリティを適切に保護  
する知財の創出

革新的な治療を届けるためには、革新的な技術・モダリティを創出する発明を奨励し、それらを適切に保護する知財の創出が不可欠です。医療に関する技術は、様々な領域で新しい技術・モダリティが研究されています。これらの新しい技術やモダリティから生まれる知財をどのように権利化し、強力な知財ポートフォリオをどのように構築するかについて、議論し検討しています。最近では、AI等を用いた薬

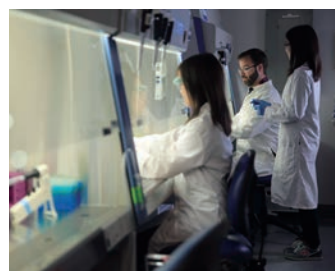
物の活性や毒性の予測モデルや、High Throughput Screening(HTS)、ロボティクス等を組み合わせた効率的な創薬も行われてきており、これらに関する知識もアップデートしています。

## JIPAへの期待

当社はグローバル製薬企業として世界70カ国以上でビジネスを展開しております。医薬品産業は研究開発型産業であり、多額の研究開発投資を回収するため、知財は有効なツールであり、イノベティブな医療創出のモチベーションとなります。知財を適切に保護する仕組みは益々重要になっています。適切な知財保護のためにJIPAが行っている国内外の知的財産制度に対する意見発信は、非常に有意義なものであり、今後も継続して発信していただくことを期待します。また、グローバルな知財活動に対応できる人材育成の場を、今後も継続的に提供いただけると大変ありがたいです。



つくば研究所での研究



Astellas Institute for Regenerative Medicine



High Throughput Screening



## グローバル化を進める模倣品、折れない心で戦い続ける！

グローバル模倣品対策PJは、その名の通りグローバルに模倣品の対策を行うPJです。前身は、アジア戦略PJになり、中国中心の対策をしていました。その後、インターネットの普及、インフラの整備、コロナ禍の引きこもり需要などが相乗的に作用し、模倣品が、一気に世界中に広がることになりました。そして、令和4年の全世界の被害額は、4兆6,800億ドル(約515兆円)に達する可能性があると言われています。このような状況に鑑みて、令和3年度にグローバルを対象としたこのPJが設立されました。そして、今では、中南米まで活動を広げています。

しかし、模倣品対策は、権利者だけでは効果的な対策はできず、模倣品が出回っている国の政府に対して法改正、運用改善、啓発活動等を要求していく必要もあります。ところが、これらの国は、模倣品対策に消極的です。よって、まず、模倣品対策がその国の発展のため、自国

民の安全のために必要と言うことを理解させる必要があります。しかし、決して上から目線になってはならず、その国の目線で、根気強く説明する必要があります。

また、近年は、模倣品の主戦場はeコマース(EC)に移ってきており、EC事業者に対する改善要望も必要です。どのEC事業者も利益最優先ですが、模倣品対策が最終的に利用者を増やす結果になることを理解させるのがなかなか難しく、継続的な説明が必要です。

しかしながら、コロナ禍で、これらの

意見交換が対面でできず、オンラインのみになっており、腹を割った交流ができていません。しかし、活動を止めたら模倣品が爆発的に増えることになります。よって、PJメンバーが知恵を出し合い、また、JPO、JETRO、税関、専門委員会等の協力を得て、そしていつか対面での意見交換ができる日が来ることを願って、忍耐強く活動しております。

そんな、グローバル模倣品対策PJで力を発揮したいという方がいたら、是非参加して頂きたいと思っておりますので、気楽にお声かけください。



Shopee<sup>®</sup>との意見交換  
※シンガポール電子商取引プラットフォーム



IP VIETNAMとの意見交換

## JIPA通信 「知財管理」誌 特集号

### 変わりゆく知財活動 ー持続可能な社会を目指してー

「持続可能な社会」に関して、カーボンニュートラル等が様々な「変化」を社会にもたらし得るものとして注目を浴びていますが、これらは企業単独で成し遂げることは難しく、企業や技術のコラボレーション、社会の仕組みの変革や、国際的な協調体制の構築が求められます。10月特集号では、「持続可能な社会」における技術や知財戦略の変化を概観しながら、今後の知財活動がどのように変化し、どのようなスキルや知識が必要となるかを考察し、提言しています。



### 表紙の写真は…

## 「鬼灯はスーパーフード」

株式会社ソシオネクスト 知的財産室  
大塚 善徳

鬼灯と言えば浅草のほおずき市が有名で夏の風物詩ですが、俳句などでは秋の季語になります。鬼灯は魔除けや無病息災を願う植物ですが、食用鬼灯はビタミンA、C、鉄分などが多く、特に高脂肪肝ビタミンのイノシトールが多いスーパーフードとして日本各地でブランド化されています。抗肥満効果が確認されているものもあり、コロナ禍で体重が気になる方は試されてはいかがでしょうか。但し、一般に食用は黄色が多いそうで、写真のようなオレンジ色は観賞用で毒がありますのでご注意ください。

本誌では、季節感があり、技術、特許、知財に関連がある表紙写真を募集しています。写真と説明文を[会誌広報グループkikansi@jipa.or.jp宛](mailto:kikansi@jipa.or.jp)てにお送りください。また、取り上げて欲しいテーマがあれば、お気軽にご連絡ください。

季刊じば Vol.23  
AUTUMN 2022  
2022年10月15日発行

編集人：一般社団法人 日本知的財産協会 会誌広報委員会  
発行人：一般社団法人 日本知的財産協会内 上野 剛史  
<http://www.jipa.or.jp/kikansi/jipa.html>  
印刷&DTP：NPC 日本印刷株式会社